

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	村田 節子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1998年 九州大学医療短期大学部卒後、九州大学で臨床看護師として婦人科および循環器・心臓外科に勤務。その後、九州大学医療技術短期大学部助手、宮崎大学医学部看護学科講師、東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授、関西看護医療大学看護学部准教授を経て、2009年8月より、福岡県立大学看護学部・大学院看護研究科に着任。成人看護学（主に急性期）および大学院看護学研究科・がん看護CNSコース担当。がん患者の排泄とスキンケア、又、ケア技術選択の根拠となる看護アセスメント過程に関心を持ち、看護過程・看護診断が主な研究テーマである。CNSは、より高度な看護アセスメント能力が求められる。CNSの役割である、実践や研究のためにもより高度なアセスメントの実践とケアの開発などを課題としている。

ケアは、単に身体の機能の回復を助けるだけでなく、患者という立場になった人々の生活の再構築を支援していく役割がある。そのためには、国や地域の慣習や伝統を考慮する必要がある。今後は「排泄環境」を通して、アジアの看護についても検討していきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 村田節子「終末期にある患者のストーマケア（担当部分単独執筆）p759-763」、『がん看護 11.12、Vol. 14, N07, 特集：がん終末期における創傷・スキントラブルとケア』、南江堂、2009
- ・ 村田節子「看護記録の監査、見落としがちな視点（担当部分単独執筆）p4-9」、『日総研、看護人材教育、Vol. 4、No. 6』2008.

#### <論文>

- ・ 村田節子、灰谷香奈子、高橋朋子、加藤篤、「イエメン共和国の排泄習慣および排泄環境の特徴と現状」、関西看護医療大学紀要、2010、3月掲載予定。

### ②その他最近の業績

#### <調査報告>

- ・ 村田節子 「婦人科がんの化学療法によるスキンダメージとQOLに関する研究」、癌研究奨学金「安田記念財団 癌研究助成成果報告集7」財団法人 安田記念財団発行 2009.
- ・ 村田節子、灰谷香奈子 「トイレで社会が見える(12) 水を巡る旅」、記事「建築コスト情報 2009. 1.」財団法人 建築物価調査会発行.

#### <学会発表>

- ・ 本田裕美、長家智子、村田節子 「看護学生の思考の特徴から見た強化すべき教授内容—慢性期の事例より—」、第15回日本看護診断学会学術集会、2009.
- ・ 村田節子、長家智子、本田裕美 「アセスメント過程における思考の変化要因と指導の方向性」、第29回 日本看護科学学会学術集会、2009.
- ・ Setsuko Murata、「A study on skin damage by chemotherapy in gynecologic cancer」、The 1<sup>st</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science、2009.
- ・ 長家智子、本田裕美、村田節子 「看護学生の思考の特徴から見た強化すべき教授内容」、第13回日本看護研究学会 九州・沖縄地方学術集会、2008.
- ・ 長家智子、村田節子、本田裕美「アセスメント過程に見る看護学生の思考の特徴と教育方法」、第14回日本看護診断学会学術集会、2008.
- ・ 江幡栄、松原康美、高橋純、高木良重、神津三佳、野口まどか、村田節子、増島麻里子、安藤嘉子、水島史乃、石久保雪江、清水けい子、「がん終末期におけるスキンケアの概念化に関する検討(第一報)」、第22回日本がん看護学会学術集会、2008.
- ・ Setsuko Murata 「Consideration about nursing basic education of bed sore care」、The international

council of nursing Conference、2007.

### ③過去の主要業績

- ・ 村田節子 「ターミナル期における自己尊重の障害への介入について—子宮頸癌Ⅲb 期再発の47歳の症例を通して—」、日本看護診断学会学会誌 vol 1.No1、p66-76、1996.
- ・ 村田節子 「ネパールにおける看護教育とケアシステムの現状と課題」、九州大学医療技術短期大学部紀要第28号 p45-62、2001.
- ・ 村田節子、熊谷秋三、平田伸子、平野祐子 「トイレ弱者の立場からみた公的空間の排泄環境整備と基準化に関する研究」、社会福祉事業助成金「第34回三菱財団 事業報告書」三菱財団発行、2002.

### 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費補助金(萌芽研究)「卵巣がん患者の化学療法によるコスメティックな変化とQOLに関する研究」、190万円、平成18～19年度、単独研究.
- ・ 安田記念医学財団癌研究奨学金 「婦人科がんの化学療法によるスキндаメージとQOLに関する研究」、50万円、平成19年度、単独研究.
- ・ 関西看護医療大学 研究助成 「イエメン共和国マナハ地区周辺における学校トイレの使用方法和衛生概念に関する研究」、30万円、平成20年度、共同研究(研究代表者)

### 5. 所属学会

日本看護診断学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会(評議委員)、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本褥瘡学会、日本ネパール協会、国際看護研究会

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護論Ⅱ・2単位・2年・後期、成人看護論Ⅲ・2単位・2年・後期、成人老年看護実習・4単位・3年・通年(就任8月から)

〈大学院〉

がん看護学実習Ⅰ・4単位・2年・前期(後期:実習の性質により9月以降にも実施)、課題研究・4単位・2年・前期(後期に就任後も指導)。

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員